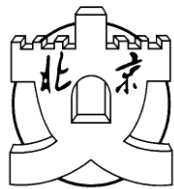


かささぎ



北京日本人学校
学校通信 第5号
平成28年9月28日
校長 奥田 修也



月まで届くホームラン



教頭 高橋 勝

アメリカのとある地方に野球観戦の大好きな、でも目の見えない少年がいました。少年は大リーグ屈指のスラッガーである選手にあこがれています。少年はその選手へファンレターをつづりました。

「ぼくは、めがみえません。でも、毎日あなたのホームランをたのしみにしています。しゅじゅつをすれば見えるようになるのですが、こわくてたまりません。あなたのようなつよいところがほしい。ぼくのヒーローへ。」

少年のことがマスコミの目にとまり、二人の対面が実現することになりました。カメラのフラッシュの中、ヒーローと少年はこう約束します。今度の試合でホームランを放てば、少年は勇気をもって手術に臨むと。

そしてその試合、ヒーローによる最後の打席。2ストライク3ボール。テレビや新聞を見た多くのファンがスタジアムで固唾をのんで見守り、少年自身もテレビの中継を祈る思いで聞かれています。

ピッチャーが投げた最後のボールは、大きな空振りとともにキャッチャーミットに突きささりました。全米から大きなためいきが漏れようとしたその時、スタジアムの実況がこう伝えました。

「ホームラン！ 月にまで届きそうな、大きな大きなホームランです！」

これは長く語り継がれているスポーツ・エピソードですが、私は運動会でがんばっている子どもたちの姿を見るたびにこの話を思い出します。

日本の運動会は、必ずしも体力の優劣を競う場ではありません。学校だけでなく地域ぐるみで行われ、世代を超えた交流の場ともなっています。集団で練習を重ねる運動会や部活動などは海外では珍しく、最近では協調性などをはぐくむ手段として評価する国も少なくないと聞きます。

本校の運動会も団体競技が多く、全児童生徒が紅白のチームに分かれて得点を争う形をとっています。そして勝敗に一喜一憂するだけでなく、相手チームの勝利をたたえることも指導されます。また、準備や係活動、応援の取組をとおして、互いに助け合うことを学び、いっしょにつくり上げる達成感を味わわせることもねらいの一つになっています。

リオ五輪の陸上男子400mリレーで、初の銀メダルを獲得した日本チーム。100m9秒台が一人もいないチームの走りは、世界に衝撃を与えました。進化したバトンパスで個人差を補い、すばらしいチームワークを発揮しての勝利に興奮させられたのは記憶に新しいところです。直後に開催されたパラリンピックでは、創始者グットマン卿の言葉「失ったものを数えるな、残されたものを最大限に活かせ。」を体現した選手たちの活躍に元気をもらいました。

小学生に将来の夢を尋ねると、野球やサッカーなどのプロ選手になりたいと答える子がたくさんいます。しかし、そうした職業につくことがゴールではないはずです。自分の好きなスポーツに関わり、充実した生活を送ることこそが本当のゴールだとしたら、職業は夢をかなえる手段の一つにしかすぎません。審判やトレーナー、用品製造などもスポーツを愛する人たちが就いている職業です。サッカーではサポーターを12人目の選手と言うことがありますが、スポーツに親しみ、その楽しさや喜びを味わう形はさまざまです。

今年の運動会にも、卒業生ボランティアが7名駆けつけてくれました。彼らは競技や演技に直接参加することはありませんが、後輩が一生懸命にがんばる姿をみることで大きな満足感を得ています。

世界最大のスポーツ大国と言われるアメリカでは、スポーツは自分で行うだけではなく、「観る」ものとしても根付いているそうです。今日の前にいる子どもたちにもスポーツには「する」だけでなく、「観る」「支える」楽しみもあることを知ってほしいと思います。そして、いつの日か一人一人が自分に合ったスポーツライフを楽しんでもらえたらと願っています。



第38回北京日本人学校運動会を終えて

— 輝け ～主役はキミだ！～ —

体育部

去る9月10日（土）に運動会が開催されました。当日まで雨が心配でしたが、子どもたちの願いが通じて見事に晴れわたり、空気も大変良く盛大に行うことができました。

夏休み前から、白組団長の小山さん・副団長の萩原さん、赤組団長の今村さん・副団長の西澤さんが中心となり練習を積み重ねてきました。本校の特色でもある縦割り班を活かした「応援合戦」や「ハチノコ」の練習では、中学部3年生が小学部低学年に優しく分かりやすくダンスや縄のとび方を教えていました。その姿にはとても微笑ましく感じました。

本番では、今年も大接戦を演じ、総合優勝は白組が、応援優勝は赤組が掴みました。それぞれに悔しさが残りましたが負けた悔しさもある意味、一生懸命頑張ったからこそその産物です。子どもたちは間違いなく、達成感を感じ得たと思います。運動会終了後の解団式では、白組と赤組のそれぞれの中学3年生が涙を流しながら熱い思いを伝える姿が見られました。子どもたち一人一人が主役になり、一人一人が輝くことができた運動会でした。

最後になりますが、ご来賓、保護者、そして大学生ボランティアの皆様には、準備・応援・競技への参加と様々な面でご配慮いただき心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

夏休み作品展を終えて

学習部

今年の作品展も、絵画や工作、手芸や自由研究など素晴らしい作品ばかりでした。

作品展の作品を見ると、どの作品もその学年に応じた工夫が随所に見られました。割り箸や段ボール、空き箱など身近な材料を活用した工作、色彩豊かに生き生きと表現した絵画、研究テーマを設定し、実験、結果、比較、考察などをまとめた自由研究など多様な作品が見られました。



子どもたちにとって、お互いの作品を鑑賞し合うこの機会は、貴重な時間となりました。同じ学年の友達作品や学年を超えた作品を見に行き、鑑賞を楽しんでいました。また、保護者の方も熱心に作品を鑑賞される姿が見られました。中には土曜日に家族連れで来られ、楽しく鑑賞される方々もいらっしゃいました。保護者の方からは、「どの作品も個性豊かですばらしいものばかりでした。」などの感想をいただきました。

自分でイメージした物を、時間をかけて創り上げる子どもたちのやる気と努力。すばらしいと思います。興味・関心のあることを探求する楽しさを作品展だけではなく、これからの生活でも発揮して行ってほしいと願っています。

「英会話講師についてのお知らせ」

ただいま 何人？

英会話講師 Michael Kessler 先生がご都合により退職されました。本校には二年半の間勤務されました。また、新講師として Nuwagira Edwin Mark 先生をお迎えすることになりましたのでご報告いたします。

